



# Mitsui V-Net

## Mitsui Volunteer Network Center

### 三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.57

2017年1月1日発行

## 新春のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団  
理事長 藏本 誠三

あけましておめでとうございます。

三井V-Netは、わが国の少子化・高齢化が著しく進捗し未曾有の高齢社会を迎える時代に、日本社会が活力を保ち続け、国民生活を維持・向上させていくためには、高齢者が社会活動に積極的に参加し、活躍できる環境を創り出すことが急務との認識に基づき、平成8年に創設され、昨年の10月で20年の節目を迎えました。これもひとえに会員各位のご努力、ご協力、ならびに会員会社各位のご厚情の賜物であると、改めて深く御礼を申し上げます。



「シニアの生き甲斐づくり支援」・「三井グループの社会貢献活動」を目指し、三井V-Netが誕生してから20年を迎えた現在、三井グループ運営会員各社（現行25社）のOBを中心としたボランティア登録会員は、1467名、①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育の4分野において、延べ9267名の方がさまざまなボランティア活動にご活躍されています。（平成28年3月末現在）

東京本部では、国際交流、医療・福祉分野に部会が設立され、各部会の代表である世話人を中心に、活動が実施されています。国際交流分野では、留学生との一対一交流の他に様々な行事が企画され活動が活発に行われています。医療・福祉分野では、病院での外来受付案内のほか、エリザベス・サンダース・ホームでの清掃活動が70回を超えて行われています。

関西支部では、国際交流分野で神戸大学留学生交流会が長期にわたり開催され昨年で13回目を迎えました。新たに大阪大学でも留学生との一対一交流が開始されました。また文化・教育分野における新しい取り組みとして、重要文化財に指定されている京都の旧三井家下鴨別邸の公開に伴い、邸内の案内業務の支援を開始致しました。月例で行われる「関西サロン」を中心に会員同士の情報・意見交換も活発に行われてい

ます。

中国支部では、広島平和記念公園での清掃活動が昨年7月に100回目を迎えました。月2回のパソコン教室開催のほか、外郭団体との連携による社会福祉活動に積極的に参加し高い評価を頂いています。

今後ともボランティア活動の内容の向上及び活動頻度アップに努め、三井V-Netの将来への発展並びに三井グループの社会貢献活動の一端を担い三井ブランドの向上を目指し努力してまいりたいと存じます。

平成28年度の取り組みにつきましては、①三井V-Net体制の見直し②新規ボランティア登録会員の拡大③運営会員会社の拡大の3点があります。

まず、三井V-Net体制の見直しにつきましては、様々な活動の基礎となる財政状態を強固にするため、平成29年度以降の二木会会社年会費変更の議案を理事会にてご承認を頂きました。

次にボランティア登録会員の拡大ですが、会員の口コミやホームページの改訂・充実等により会員数は年々増加しております。昨年は、ニュースレターの配布先を二木会・月曜会各社の関連会社まで拡大し更に勧誘活動を強化しています。

運営会員会社の拡大につきましては、平成25年度に太平洋セメント、三井住友建設の2社が復会され25社となり、弊事業団設立時の二木会会社全社が揃うことになりました。更に会員会社を増やすために、二木会・月曜会メンバー会社の未加入会社及び休會会社への新規加入あるいは再加入の勧誘対策に取り組んでまいります。

三井V-Netとしては、本年も充実したボランティア活動を展開してまいりたいと思いますので、引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、今年一年の皆様のますますのご発展をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。





人と人のまんなかに。

# 三井V-Net設立20周年特集

## 三井V-Net設立20周年に寄せて

東京大学国際センター相談室  
准教授 大西 晶子



三井ボランティアネットワーク事業団設立20周年、おめでとうございます。

貴事業団のご協力を得て、東京大学留学生センター（現：国際センター）にて留学生との一対一交流活動が産声を上げたのは、1997年であったと伺っています。故栖原暁先生の東大着任直後であり、留学生が日本社会と深く触れる機会を持つことの重要性を常々語っておられた先生にとって、三井V-Net とのご縁は、大変幸運なものであったと想像いたします。20年間、途切れることなく続いてきた活動（本郷ではFACEプログラムという名称で活動しております）は、東大以外の大学にも活動の輪が広がっており、本学でもこれまで3,264名の留学生・外国人研究者が参加いたしました。一方の日本人パートナーの登録のべ数も、2,200名を超えております。うち、285名が三井V-Netの会員の皆さまで、豊富な社会経験・人生経験を活かし、留学生の良き交流相手、時には相談相手になっていたいております。

近年は海外からの観光客の誘致や東京オリンピックに社会的な関心移っており、日本文化のお手軽な紹介といった表面的な国際交流イベントが増えている印象を受けます。このような時代にこそ、じっくりと一人の学生と向き合い、人間的な関係を深める一対一の交流活動が大切であり、本学の留学生にとって貴重な学びの場となっております。会員の皆さま、活動を支えていただいております事務局の皆さまに、心より感謝申し上げます。

日本赤十字社医療センターボランティア担当  
医療社会事業課 常勤嘱託 千葉 修一



創立20周年おめでとうございます。

当センターが三井グループからのボランティア協力を頂いた記録を調べてみましたら、昭和52年からの協力福祉団体の傘下として平成9年から外来案内で活動し、平成11年に三井ボランティアネットワーク事業団として独立して外来案内を主に活動していただき、17年の長きにわた

ることを知りました。

当センターでのボランティア活動は、42年前（昭和52年）一人の患者さんの小児病棟における学習指導から始まり、段々とグループ化して今日でも活動を続けている所ではありますが、企業ボランティアとして名乗りを上げて短命で終息したグループも多々見られるようです。このような中で17年間三井V-Netに在籍しながら当センターの外来案内一筋のY・Tさんやこれに準ずるT・Mさん等の皆さんには脱帽せざるを得ません。

また、日本赤十字社有功章社員章等贈与規則により、通算20年に贈られる「金色有功章」にあと2年というところで病に倒れられたM・Mさんの奥様のご主人の悲願達成のためにとバトンを受けて外来案内の活動をされております。

三井V-Net会員には三井系の企業OBで海外勤務された方が多く、英語・フランス語・スペイン語と語学の堪能な方がいらっしゃるの本当に助かっております。このような通訳の活動は外来に留まらず、入院病棟でも出張の依頼や退院後の生活指導パンフレットの翻訳もお願いしている所です。4年後の東京オリンピック開催に向けて海外の観光者が多数見えられております。体調不良の診察で来院したときには日赤の人道・博愛の精神を根底として適切なお案内をお願いいたします。

社会福祉法人児童養護施設  
エリザベス・サンダース・ホーム  
理事長 小川 正夫



三井グループの重鎮であられた方々が、ご自分の大切な時間を、人々への奉仕にあてることを目的に結成された三井ボランティアネットワーク事業団は、設立20周年をお迎えになるとのお知らせ、心よりお祝い申し上げます。

社会福祉法人エリザベス・サンダース・ホームの働きは70年の歩みの中にありますが、設立当時、三井高次郎ご夫妻がロンドン三井物産に駐在の頃、ご長男高國様の養育係として採用された英国人女性、エリザベス・サンダース様から頂いたご支援を記念して、施設の働きにお名前を戴いております。

思い出してみますと、その頃より三井家にゆかりあ



人と人のまんなかに。

## 三井V-Net設立20周年特集

る方々からご支援を頂いていることとなります。

三井ボランティアネットワーク事業団結成の時から、皆様には、ホームの環境整備にお力添えを頂きましたことは、実に80回を重ねております。また、ホームで生活する子ども達の生活支援のために、チャリティーコンサートの企画、開催は10回を重ね、多額のご寄附を頂戴いたしております。

本当に、心からの感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。

聖書に「この、いとちいさきものに なしたるは、われに なしたることなり」という、イエス・キリストの言葉を思い浮かべます。皆様が将来ある子ども達一人ひとりを大切に思って下さること、重ねて、感謝の心を込めて御礼申し上げます。

ありがとうございました。

公益財団法人 民際センター  
事務局長 富田 直樹



この度は創立20周年、おめでとうございます。

三井ボランティアネットワーク事業団の皆さまには、1998年度から現在までタイ・ラオスの経済的に恵まれない子どもたちをご支援いただきまして、心より感謝申し上げます。この間にご支援いただいた奨学生数は延べ305人に達します。

貴団体が1996年の発足ですから、発足後2年足らずでご支援をスタートされたこととなります。グループ各社とアジアとの深い結びつきを考慮されてのことと伺っておりますが、毎年、たくさんの書き損じハガキ等を集めて送っていただき、貴団体のニュースレターにご支援された奨学生の顔写真を掲載していただきました。

2014年には一木会で「ダルニー奨学金とタイ・ラオス・カンボジアの子どもたちの現状」というテーマで講演をさせていただきました。講演後の親睦会で募金をお願いし、あっという間に数口の奨学金が集まりました。国際交流・支援に対する皆さんの熱いお気持ちを目にして感激したことを思い出します。

2015年末にアセアン経済共同体がスタートし、アセアンと日本の結びつきはますます深まると予想されます。日本の経済発展にとってアセアン諸国の安定と発展が欠かせません。しかし、例えば、ラオスもカン

ボジアも中学就学率は5割程度、2人に1人しか中学校に行けない状況で、まだまだ教育支援が必要です。今後とも引き続きダルニー奨学金をご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

三井V-Net元理事長  
滝 健（三井住友海上OB）



設立20周年おめでとうございます。

私は平成19年より2年間三代目の理事長としてお世話になりました。

本部の事務室に机とパソコンをもらい週3日出勤していましたが、理事会や二木会報告等の年次的な業務の他に日常業務はなく時間はたっぷりありました。そこで事業団の活動に可能な限り参加して現場への挑戦を思い立ちました。いろいろな活動プログラムに参加できたお陰で現場を知り会員を知り受け入れ先を知りました。その中でわが事業団の事務局員とボランティア会員の皆様がいずこの受け入れ先からも信頼され高い評価を得ていることを知りました。さすがは三井のシニアと大いなる誇りを覚えたものです。

任期中の事業団を振り返りますと、運営面について言えば一つの節目を迎えていました。それは会員会社が設立時よりだいぶ減少しその歯止めと反転が迫られていたからです。難しい問題ですが、事業団設立の原点であるオール三井により運営、その精神に立った運営体制の刷新、これが重要な対応策になるように思いました。しかしながら、私自身はこの課題を次の理事長に引き継ぐだけで、その後は会員会社の皆様の検討に委ねる結果となってしまいました。あの種がもしも検討過程において多少なりともお役に立つことがあったとすれば嬉しいことです。シニアによる無償の社会貢献はV-Netのもう一つの原点です。

世のため、人のため、さらなるご発展を祈念申し上げます。

三井ボランティアネットワーク事業団  
運営委員長 秋葉 勝敏  
(三井住友海上)



三井ボランティアネットワーク事業団は昨年10月で20周年を迎えました。この間、登録ボランティアの皆様には



# 三井V-Net設立20周年特集

誠心誠意活動いただき、広く社会の信頼を得ることができ、また運営会員会社におかれましては、事業団運営に多大なご尽力を賜り、事業団として大きく成長することができました。改めて御礼申し上げます。

1996年9月に会員会社35社が設立総会を開催、三井海上（当時）会長の石川武が理事長として本事業団の誕生に関わり、また、本事業団が二十歳となる節目の年に運営委員長会社として貢献できることを、大変光栄に存じます。

ニュースレターでは、毎号、留学生との交流・支援、清掃活動、病院ボランティア活動等が報告されています。参加された方々が生き生きと活動されている様子が良く分かり、まさに、本事業団設立の趣旨である、「シニアが社会活動に積極的に参加し、活躍できる環境を創り出す」ことが実現されていることを実感します。また、留学生との交流に関する活動が大きなウエイトを占めていますが、これは、グローバルに活動する三井グループ企業の社員としてのグローバルな経験・知識、語学力等を十二分に活用して留学生の育成に貢献する、「人の三井」に相応しい活動であります。

今後とも三井グループが母体であるという強みを活かしつつ、さらに活動の幅も広げて、三井ボランティアネットワーク事業団が発展して行くことを祈念します。

ボランティア会員  
武内 克彦（三井物産 OB）

三井ボランティアネットワーク事業団（以下 V-Net という）創立20周年誠におめでとうございます。20年の間事業団の運営と発展に尽力いただいた方々に敬意を表します。

退職後14年が経ちましたが、私のシニア生活の中



武内克彦様（右）【日本語サロン交流相手中国からの修士留学生 佳林さんとの勉強風景】

でV-Netでの活動は非常に大きな位置を占めています。このお付き合いなくしては私の第二の人生は大変味気なくなっていたことでしょう。私は会社卒業後はボランティアとして社会に役立つ何かをするとの計画をたて、まず地元貢献の意味で調布市の小学校の自然学習サポートなどをはじめました。そのうちV-Netの存在を知るところとなり、2003年ごろ会員登録し、まず東大のFACEプログラムに申込み、駒場での中国の男子留学生との交流が始まりました。彼の帰国後も他の留学生との交流を続ける傍ら2005年ごろ日本語サロンの活動に参加したと記憶しています。

当時日本語サロンは大勢の留学生とボランティアの人たちが、文字通りサロンの雰囲気の中で毎回数組が基本的には一対一の形で思い思いの日本語力の向上に取り組んでいました。2、3年後当時の世話人であった中村さんからバトンを渡され今に到っています。卒業や帰国などの理由で次第に参加者が減り、宣伝や口コミの不足もあり今は参加者は二人で私を含め2名の会員で運営しています。学生は非常に熱心で家族的な雰囲気の中でしっかり交流し成果を挙げています。日本語サロンは静かな環境で好きなように交流できる楽しい場です。卒業されこれから何をしようかと思案中の方は是非一度お試しください。



三井 V-Net 設立披露パーティで挨拶する初代理事長 石川武氏（当時 三井海上火災保険会長） 1996年10月1日開催



多摩川清掃活動 2004年9月



# 三井V-Net設立20周年特集



## 三井V-Net 20年の歩み

年(西暦)	本部	関西	中国	月	主な活動
平成8年 (1996年)	○			10月	三井V-Net発足
	○				ニューズレター創刊号発行
	○				ダルニー奨学金(民際センター)開始
平成9年 (1997年)	○			4月	多摩川清掃活動開始
	○			10月	荒川清掃活動開始
	○			11月	東大留学生との一対一交流開始
平成10年 (1998年)	○			1月	日赤医療センターでの活動開始
	○			2月	日本チャリティー協会支援開始
	○			6月	東大病院での活動開始
	○			7月	千葉大留学生との一対一交流開始
平成11年 (1999年)	○			4月	日本語サロン発足
	○			8月	エリザベスサンダースホーム清掃開始
平成12年 (2000年)	○			4月	駒澤大留学生との一対一交流開始
平成14年 (2002年)		○		12月	関西支部発足
		○			留学生一対一交流(神戸大、同志社大、立命館大)開始
		○			医療ボランティア(国立大阪医療センター、京大病院)活動開始
平成15年 (2003年)	○			8月	横国大留学生との一対一交流開始
		○		9月	須磨海岸清掃活動開始
		○		10月	二色の浜清掃活動開始
平成16年 (2004年)		○		3月	司馬遼太郎記念館での活動開始
	○			10月	東大柏での一対一交流開始
		○		11月	済生会中津病院での活動開始
平成17年 (2005年)	○			1月	千葉大病院での活動開始
		○		2月	第1回神戸大留学生交流会開催 以降年1回開催
平成18年 (2006年)	○			5月	「一木会」発足
	○				鎌倉由比ガ浜清掃開始
	○			7月	奥多摩水源林保全活動開始
			○	10月	中国支部発足
			○	11月	広島平和記念公園清掃開始
平成19年 (2007年)			○	2月	森林保全・国際交流活動開始
		○		5月	関西学院大留学生との一対一交流開始
			○		社会福祉ボランティア活動開始
			○	6月	第1回パソコン教室開催
		○		8月	世界陸上大阪大会のボランティアに参加
		○		11月	第1回チャリティーコンサート開催
		○			四天王寺ワッソでのボランティア開始

年(西暦)	本部	関西	中国	月	主な活動
平成20年 (2008年)		○		1月	神戸市立博物館での活動開始
			○		広島大学病院での活動開始
		○		4月	大阪歴史博物館での活動開始
		○		5月	第1回パソコン教室開催
平成21年 (2009年)			○	6月	「湘南倶楽部」発足
			○	8月	広島平和祈念式典での車いす介助開始
	○			6月	奥多摩水源林保全活動終了
平成22年 (2010年)	○			10月	埼玉大留学生との一対一交流開始
		○		4月	人と防災未来センターでの活動開始
平成23年 (2011年)		○		10月	マイナビABCゴルフボランティア活動開始
		○		4月	兵庫県立美術館での活動開始
平成24年 (2012年)		○		8月	神戸大病院での活動開始
		○		10月	「関西サロン」発足 以降隔月開催
	○		○	3月	広島市民病院での活動開始
平成25年 (2013年)		○		4月	キッズプラザ大阪での活動開始
		○		6月	サントリーレディスオープンボランティア活動開始
	○			8月	一橋大留学生との一対一交流開始
		○			三井記念病院での活動開始
		○		11月	京都府立医大病院での活動開始
平成26年 (2014年)		○			大阪市立大留学生との一対一交流開始
		○		1月	広島市長表彰受賞「清掃活動5年以上表彰」
	○			10月	大阪マラソン団体ボランティア活動開始
平成27年 (2015年)		○		2月	荒川清掃「永年活動17年」受賞
			○		「広島市社会福祉協議会会長賞」受賞
	○			10月	第1回医療ボランティア懇談会開催
平成28年 (2016年)		○		11月	神戸マラソン団体ボランティア活動開始
		○		4月	奈良国立博物館での活動開始
		○		7月	第100回広島平和記念公園清掃活動
平成29年 (2017年)		○		11月	広島市長表彰受賞「社会福祉への貢献」
		○		3月	大阪大留学生との一対一交流開始
		○		7月	「関西サロン京都部会」発足 年2回開催
	○				第1回ゴルフレッスン教室開催
平成30年 (2018年)		○		10月	三井V-Net20周年を迎える
		○			旧三井家下鴨別邸での活動開始



## 本部（東京）

### 東大国際センター部会 留学生との交流会（2016年10月14日開催）

東大国際センター部会代表世話人 白井 則子

昨年と同様に秋のイベントとして会員と留学生の交流会を開催しました。場所も同様に東大のキャンパス内にある山上会館ラウンジ・ハーモニー。参加者は会員16名、留学生18名、事務局3名、大学側2名。

最初、三井V-Netの成り立ちの紹介、主催、主賓の挨拶があり少しフォーマルな雰囲気が始まりました。そして理事長の乾杯の後、食事をとりながら留学生たちと歓談が始まり和やかになりました。食事はお寿司に人気が集まり、留学生もパクパク。海外での日本食ブームが分かります。

その後留学生達の司会で留学生の自己紹介、エンターテイメントとしてくじ引きが始まりました。このくじ引きは会員より景品の提供をいただき、たくさんの品が集まり、会を盛り上げてくれました。くじ引きゲームの景品は当たり番号、ジャンケンなどで決まります。司会のリードも上手く景品獲得争いもヒートアップしていきました。会員にとっては孫の年齢の留学生たちは子供っぽい一面も垣間見えます。会員たちはその若さに圧倒されゲームの様子を周りで眺めていました。考えてみると毎日研究に没頭している忙しい学生達にはこのちょっとした遊び、冗談は清涼剤なのでしょう。ストレスが多い外国での研究生活の中で一息できる時間は貴重です。この日はこの貴重な一時だったのかもしれない。

反対に会社経験豊富な会員たちはまだ幼いところが残る学生達との会話が弾みお酒も美味しかったようです。世代、国境を超えた交流は単純なことからスタートするのだと感じました。



左から国際センター相談室 大西先生、三井V-Net 蔵本理事長、筆者

（参加留学生の感想文・原文のまま）

International Student Gathering

Aizelle Yen Argete (Philippine)

International students from Tokyo University were invited on the annual gathering dinner organized by the members of MITSUI V-Network at Harmony Restaurant at Sanjo Kaikan in Tokyo University campus last October 14, 2016.

This gathering highlighted the meeting of other foreign students and members of the organization to share experiences and activities here in Japan. It was indeed a delightful experience for me and to other foreign students to meet new people during our stay here. Among those who have accepted such invitations to the banquet were students from China, Thailand, France, Mongolia, Philippines and Brazil.

Once the opening speeches were over, the director of the organization welcomed us while everyone exchanged "Kampai!" as toasts were being made. It was another great evening I experienced with excellent company and an abundance of delicious Japanese foods. It was also a fun experience which throws up a few surprises like raffle where students received variety of gifts from the members like Japanese sweets and souvenirs. The thing I like about this event is that it shows that people from many walks of life from different countries can come together to share foods and life experience with each other and I am very much happy for attending this event.

Activities such as this is always a great occasion for us and in behalf of other international students, we thank the organization for their continuous effort in having events like this for us to have a wonderful and memorable stay here in Japan.





(和訳)

### 三井 V-Net 交流会

Aizelle Yen Argete (フィリピン)

2016年10月14日、東京大学の留学生たちは三井V-Netの交流食事に招待されました。場所は東京大学キャンパス内の山上会館レストラン「ハーモニー」。

この交流会のハイライトは三井V-Netの会員と留学生が日本での経験、活動を分かち合うことです。日本在留中、私たち留学生たちが新しい人々と出会う素晴らしい経験です。招待された留学生は中国、タイ、フランス、モンゴル、フィリピン、ブラジルです。

開催のスピーチ終了後、理事長の乾杯の音頭で歓迎をうけました。素晴らしい友人、たくさんの美味しい日本食を知った貴重な夕食でした。ドアプライズ（くじ引き）はちょっと驚きの楽しい時間でした。留学生はくじ引きの景品としてお菓子、お土産などを会員の方からもらいました。このイベントで気に入ったことは各国、各層からの人たちの気持ちが一になることです。食べ物、生活経験をお互いに分かち合うこのイベントに出席でき幸せです。

このような活動は私たち留学生にとってとても貴重な機会です。私たちのためこのようにイベントを企画してくださる組織に感謝します。そして日本留学の素晴らしい、忘れられない思い出になります。

## 2016 年秋

### 横浜国大会ウエルカムウオーク

坂本 健 (三井物産 OB)



手前 帆を張った日本丸

10月入学の留学生を主な対象として、横浜国大主催（当部会運営担当）のウエルカムウオークを10月10日（月・祝日）に実施した。

今回は留学生55名、日本人学生チューター6名、会員他22名合計83名と大盛会であった。もともと4月入学生と比較し10月入学生は多いが、画像入りポスターを使用し、配布先も担当の先生のご尽力による拡大、当部会と縁の深い大学院英語プログラム留学生へ

の周知徹底につき担当部署の協力を得たことも効果的だったのではないと思われる。

桜木町駅前で集合写真を撮り、最初に帆船日本丸に移動したが、今回はすべての帆を広げた総帆展帆で、日本丸の華麗さが一段と光っていた。同船は1930年建造で遠洋航海も含め多くの実習生を育成した54年の歴史を持つ日本最初の大型練習船（帆船）である。同船の任務終了後、国内10都市からの誘致要請があったが、青少年向けの海洋教室実施、操帆他の習得体験などを行う計画が認められ、横浜みなとみらい地区に係留保存されることになった。隣接の横浜みなと博物館とともに一般公開されている。また展示ドックは国の重要文化財である。

4月と比較し参加留学生数は3倍強となった。赤れんが倉庫では混乱回避のため休息せず隊列を整えるだけで通過とした。また横浜開港資料館では2グループに分け、1階、2階に別々に先行させる必要があった。毎回オプションとしている中華街散歩にも多数の留学生が参加した。当日は双十節で大変な混雑であったが、ドラゴンダンス、爆竹（金属製の籠の中）など見ることができた。部会会員各位の目配りのお陰もあり、大人数にもかかわらず、無事終了することができました。感謝。



大棧橋にて集合写真

### 東大柏部会「書道教室」を開催

三澤 寛 (登録会員)



まずは吉野会長の「習うより慣れよ」

文化・芸術の秋たけなわの10月14日、東京大学柏キャンパスの留学生・研究者を対象とした書道教室が東大柏図書館コンファレンスルームで開催されました。

東大柏国際オフィス及び柏市書道協会の協力のもと、16名の学生・研究者が参加し行われました。

三回目となる今年は、参加者の出身国も12か国と、国際色豊かな書道教室となりました。

三井V-Netが事前の準備を進め、当日は7名の会員



が講師と生徒のコミュニケーションや教室運営のサポートにあたりました。

柏書道協会会長の「習うより慣れよ」との開会挨拶に続き、即、筆を持っての実践に入りました。

教室の前面には、各参加者が自分の好きなものを選択できるように、多数の手本が貼りだされました。

昨年までは、全て漢字一文字の手本でしたが、今回は二～四文字の漢字、更にはひらがな混じりやひらがなだけの手本も用意されましたが、大胆に漢字四文字やひらがなにも挑戦する生徒も少なくありませんでした。中には、複数の手本に臨む者もあり、講師の方々もその積極性と吸収能力の高さに驚いておられました。

完成した作品には、協会で作成した東大柏という文字の印が落款され、台紙に貼られ、10月20日の柏市文化祭と10月21～22日の東大柏のオープンキャンパスに展示され、国際化した日本文化の香りを醸し出すことができたのではないのでしょうか。



一人ひとり丁寧に指導を受けました

文化祭と10月21～22日の東大柏のオープンキャンパスに展示され、国際化した日本文化の香りを醸し出すことができたのではないのでしょうか。

## エリザベス・サンダース・ホーム 園内清掃のボランティア活動に参加して

長谷川 満 (三井住友銀行 OB)

私がエリザベス・サンダース・ホーム (以下ESH) の園内清掃活動に参加して10年を超えました。60歳前に参加して現在71歳ですから、早いもので11年ほどになりました。

当初は軽い気持ちで参加したので、こんなに長く続けられるとは思ってもみませんでした。と言うのも私は家では家事をほとんどしないからです。こんな者が清掃活動を永くできるはずはないと思っていました。ところが参加してみると、清掃に対して結構やる気が出るのです。その要因を少し述べてみたいと思います。

ESHの清掃活動は毎回30名前後の参加者で清掃箇所を約6チームに分けて作業をします。参加者の中には70代後半の方も多く、80代の方も数人おいでになります。

人格的にも素晴らしいこうした諸先輩の清掃への取り組み姿勢、活動姿勢に刺激を受けている事は間違いありません。俗にいう元気な諸先輩から「元気をもらっている」と思います。

ESHの清掃活動は10時にスタートして11時半頃に終了し、12時からはESHに近いお店で食事会兼反省会を毎回行います。

世話人からの連絡事項、新会員の紹介の後、食事会

を行います。食事がほぼ終わるところから各チームリーダーより活動報告が順次行われます。この報告が各チームともなかなかユニークで笑いが絶えない懇親の場であり参加者の関係を深める場にもなっています。

この会は約1時間少々で終了しますが、まだ反省が足りないという有志は場所を変えて反省会の続きを行います。極めてまれには、まだ反省が足りないということで、更に場所を変えて歌も歌いながらの反省会を続けることがあります。

こうした人間関係こそが私が永く活動を続けられた大きな要因で作業意欲にも繋がっているはずですが、いつも思うのですが、このボランティアに参加してくる方々は身体が元気なことは勿論ですが、精神的にも健全なすばらしい人達ばかりです。自分はまだまだ未熟者ですが、これからも諸先輩を見習って頑張ろうと思えます。

最後に2016年9月の清掃には東芝エレベータ神奈川支社の社員の皆さんが多数参加してくれましたので、その時の集合写真を掲載したいと思います。

東芝エレベータの皆さんは若いこともあり、毎回、清掃活動の貴重な戦力として活躍してくれていますので会員一同いつも感謝しています。



## 明日への医療ボランティア

医療ボランティア  
世話人 神崎 星五子

20年に及ぶ医療ボランティア活動は三井V-Netの中で様々な人達のバトンタッチを戴きホスピタリティの心を持つ人々で継続して参りました。「人のお役に立ちたい」という思いがボランティア活動の原動力でございます。医療ボランティア立ち上げ時期のご苦労などを伺いますと現在は安定した組織、定期的に行われる行事を有り難く享受しております。ボランティア活動は今でこそ社会で理解されておりますが、活動当初は来院者の方からかけられた様々な言葉があったと伺っております。その中でたった一言「有難う」「助かりました」の言葉で救われ喜びを感じ継続してきたと信じております。三井V-Net事務局と医療ボランティア会員は組織・活動が未熟だった時期の一つ一つ改善し、ボランティア活動を行っている病院側とのコミュ



懇談会出席の皆様

ニケーションを大切に長い間小さな歩みの中で培われた信頼と継続こそが今日の医療ボランティア班であると思っております。

近年、ボランティア活動する人はしなかった人より長生きで健康であると統計に出ております。身体の健康そして心の健康こそ年齢を重ねてから必要な一つと思われまます。毎週、隔週など自分自身のリズムに合わせて「人のお役に立ちたい」その気持ちを胸に地道な活動ではありますが継続してこそ健康で活動できる要因と思っております。医療ボランティア立ち上げ時、様々なハードルを越えて下さった諸先輩、20年の長い期間医療ボランティア活動に携わって下さいました皆様、そして活動中の皆様に感謝しご健勝をお祈り致します。

最後にボランティア活動を受入下さっている活動病院にこの場をお借りしお礼を申し上げますと共に今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 日本チャリティ協会より感謝状及び 記念品を授与される

本部事務局

2016年11月15日、日本プレスセンター10階ホールにて日本チャリティ協会創立50周年記念式典が開催され、三井V-Netに感謝状と記念品が授与されました。

当日は、冒頭に同協会名誉会長の高円宮妃殿下（喪中のためご欠席）のお祝いのお言葉が披露されました。続いて高木金次会長の謝辞において、50年間にわたる



活動への取り組みの意義を強調するとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての更なる活動強化の決意が述べられました。

表彰式の後には、宮城まり子さんとねむの木学園の子供たちによる合唱コンサートが開催され、和やかな雰囲気の中、終了しました。

三井V-Netは同協会が主催

または協賛するイベントにボランティア会員を派遣し、来場者の会場案内等のお手伝いをしています。

ご協力頂いている会員各位には改めて御礼申し上げます。

## 第10回エリザベス・サンダース・ホーム チャリティーコンサート開催

本部事務局

平成28年11月6日（日）、秋晴れの下、第10回エリザベス・サンダース・ホーム（以下ESH）チャリティーコンサートが開催されました。

湘南倶楽部会員有志の皆さんが大磯駅、ESH正門、会場内での案内により、来場の皆様も混乱なく集まり、時間どおりコンサートをスタートすることができました。

司会の高田佳代子さんの進行の下、誉田事務局長からの挨拶に続いて小林洋平さん、桃瀬茉莉さん、伊藤友馬さんとストリングス7名の皆さんでの素晴らしい演奏が続きました。休憩を挟んでの第二部についても新しいアレンジを加える等、昨年までとはやや趣きも変えての演奏会となり、来場者を感動の中に引き込むと共に、大変楽しませてくれる楽曲を奏でてくれる思い出に残る演奏会となりました。更に昨年までと異なった点としては特別参加の伊東祐季さんのウッドベースによる演奏、伊東真紀さんの“You Raise Me Up”の歌唱は大変印象に残りました。

そしてアンコールでは、小林洋平さんのサクソフーンに加え、桃瀬茉莉さんによるパイプオルガンでの“Amazing Grace”が披露され、大きな拍手をいただきました。パイプオルガンは以前から演奏をして欲しいとの希望がありましたが、今回「聖ステパノ学園」の事務局、先生方皆様のご協力を賜り演奏することができました。

アンコール曲終了後にESHの女子児童より小林さん、桃瀬さんに花束が贈呈され、会場からかわいい児童たちに大きな拍手が送られました。





コンサートのラストには誉田事務局長より収益金寄付金の目録がESH小川理事長に手渡され、小川理事長からの御礼の挨拶をもってコンサートは終了しました。

多くの関係者皆様のご協力、ご尽力によりまして、第10回のコンサートも大変盛況の中、無事閉幕することができました。本当にありがとうございました。



## 関西支部（大阪）

### 「台湾留学生と、学び学ばれ」

水谷 良明（東レOB）

三井V-Netについては、東レ勤務時代の上司の方のご賢弟にあたる三井銀行ご出身の中川氏が初代の事務局長をされていたこと、また東レの諸先輩がボランティアをされている体験談も伺っていたこともあり、かなり前から知っていました。そのようなことからいつか私もお役に立てればと思っていましたが、昨年会社勤務の第一線を退いたこともあり、今年の4月から国際交流の分野で活動を始めたところです。

現在交流を担当しているのは、台湾から神戸大学法学部への短期留学生の陳健豪さんです。最初の本人の自己紹介のための登録票の日本語は随分たどたどしいものでしたが、始まって1～2か月するとめきめき会話力が向上しているのに驚きました。中国語を母国語としている人には、日本語の入門段階は比較的容易なのかもしれません。

本人の専攻が会社法ということで、実際の企業活動が話題になる時は、大変興味を持つようで、面白い、知らなかった等の反応が多く出てきます。一方、彼の



留学生と筆者（右端）

休日の話などはこちらも外国人から見た感想を面白く聞いています。日本文化に興味のあるドイツ人留学生と一緒に靖国神社に行ってきたと聞いた時は驚きました。台湾人にとっても微妙な場所である靖国神社に対する感情を正直に吐露するとともに、併設されている遊就館（資料館）が非常に参考になったとのことでした。

私のような一般の日本人が中国の歴史に詳しいことに驚いていましたが、同時に台湾の若者にとって、古代中国から近代中国までの歴史を自国の歴史として学ぶのかについて一部に疑問の声があることを紹介してくれたのは、現在の政治情勢から納得させるものがありました。

東日本大震災の際、外国からの支援金で台湾がダントツ No.1 の寄付をしてくれたことはよく知られていることですが、そうした親日感情の厚い台湾の人たちとの交流の一助になればと思い、短い期間ですが活動を続けています。

### “ 中国人留学生の支援 ”

黒澤 信之（三井物産OB）

いつも微笑みを浮かべ優しい表情の留学生！新緑がさわやかな五月晴れの京都今出川キャンパスで初めてお目にかかった時の印象だ。揚子江の河口から130kmほど上流に位置する町、流行歌でも謡われる無錫から来日中の留学生 繆婷婷（ミョウテイテイ）さん。

来日する前、中国の大学で日本語を専攻しただけに



さすが日本語力は非常に高い。彼女は、本年4月から同志社大学商学部修士課程で国際金融を専攻している。好奇心が旺盛で、国内各地を訪れ、紅葉の飛騨「白川郷」にも足を延ばした。急こう配



同志社大学今出川校地正門

屋根の合掌造り、郷土料理「飛騨牛」も堪能したそうだ。異国の旅先での経験は格別だ。私自身、婷婷さんの年代に、ドイツ各地を訪ね、土地独特の良さ思い出は、今でも心に深く刻まれている。

ご本人の要望もあり、専攻研究テーマ「国際金融」に関係するキーワードを日経新聞、週刊東洋経済、英国週刊誌エコノミストの記事から選び、私が解説しながら会話を進める。仮想通貨、ビットコイン、フィンテック、スマホ決済など。最近の金融界を取り巻く状況変化は速く目覚ましく、10年後の金融状況を想像するのは難しい。仮想通貨ビットコインは既存の通貨と違って、巨大なサーバーを持たず、「ブロックチェーン」という各個人所有のPCを活用する。既存の金融機関経由より格段に安く送金できるのでアフリカ、新興国で需要が増大中だ。今後普及が進み認知度が向上したら、日本のコンビニで誰でも簡単にネット買物代金などを仮想通貨でスマホ決済できる日が来るかもしれぬ。

就職は日本企業をご希望なので、日本語の表現力、特に文章作成力の向上を目指している。今年の5月に初めてお会いしたとき、すでに口語表現力は、自然で素晴らしいものでした。今後、同意語辞典も活用し語彙を増やし、表現力を磨くよう強くお勧めしている。

## 大阪大学留学生ホストファミリープログラムへの参加

関西支部事務局

大阪大学では、留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として「大阪大学留学生ホストファミリープログラム」(略称/OHP)が実施されています。このプログラムは対象を大阪大学に学ぶ外国人留学生とし、大阪大学近郊の地域の市民ボランティアの参加のもとに、家族ぐるみで率直かつ気軽な交流活動をすすめること、および大学・家族・留学生が適宜相互に助言し、相談に対処していくことを主旨としています。

平成28年9月、関西支部ボランティア会員3家族に

て初めてOHPに申し込み、吹田キャンパスにて開催された、「留学生とホストファミリーの出会いの会」に参加しました。

「出会いの会」では、まず、国際教育交流センター長の有川友子教授から大阪大学ホストファミリープログラムの内容を説明いただき、引き続き、ホストファミリー53組の出会いの会(マッチング面談)が行われました。

各参加団体の皆さんは手慣れた様子で、それぞれ紹介された留学生と和やかに面談していましたが、私たちは初体験のため、どんな留学生が現れるのだろうか、はらはらドキドキと待っていました。いざ会ってみると皆明るく笑顔の素敵な留学生であったので安心しました。

6ヶ月間の短い期間ですが、実り多く有意義な交流となりますよう祈っております。



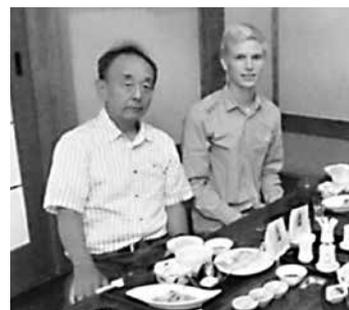
OHP出会いの会(マッチング面談)風景

## 留学生交流で生まれた新たな楽しみ

太田 正隆(登録会員)

「大阪大学の留学生ホストファミリープログラムに、三井V-Netからも参加することになったそうだ。閑なら、やってみないか」。昨年、仕事をリタイアして間もなく、会社の先輩から誘いがあり、三井V-Netの活動に加わりました。

最初のイベントは留学生対象の新聞社の見学会。大阪大学大学院の韓国出身の女子学生と知り合いました。



筆者と留学生

この人は、丁寧な日本語を、敬語を交えて話します。韓国も大変な競争社会だそうで、若者は日本以上に就職や結婚で困難に直面しているようです。「貨幣価値や物価、すべてが安定している日本にひ



留学生と筆者(中央)

かれる」という言葉が印象に残りました。日本語を使う大学の勉強は大変なようでした。

10月には、大阪大学ホストファミリー制度に沿って、22歳のドイツ人男子留学生と半年間の交流がスタート。理系の物理学専攻で、柔道部に入り、日本人の生活や文化に関心があるようです。東京から休暇で戻った息子や娘を交えて食事をする機会があり、私の家族4人から、ドイツの家や、ガールフレンド、食べ物や車の話などで質問攻めに遭っていました。帰国前には、仕事をリタイアした父親や妹を呼び、一緒に日本旅行をするそうです。

短い間ですが、留学生に良い印象が残り、長い目で見て、役に立つ交流ができればと思います。

## 二色の浜ビーチクリーンアップに参加して

武沢 昭孝 (三井住友建設 現役)



2016年9月24日、当社のボランティア活動の一環として、二色の浜ビーチクリーンアップに総勢27名で参加させていただきました。当日は曇りがちではありましたが、海岸清掃を行うにはとても良い日となりました。

少し早めに現地に到着し、砂浜におりてみました。一見するときれいな砂浜に見えますが、所々たばこの吸い殻や花火の破片などが落ちており、シーズンは過ぎておりますが、裸足で遊ぶ子供達は怪我をしかねない、と感じました。

全体で総勢300名を超す参加者が集まり、清掃活動が始まると、最初は一角に固まっていた人達も、徐々に範囲を広げて、協力し合いながら拾い集めていました。私もいざ始まると、真剣にごみを拾い集め、時間を忘れて没頭しておりました。その後、各自で拾い集めたごみの収集を開始すると、驚くほどの量のごみが落ちていることがわかり、埋もれているごみも相当数



あったのだと思うと、マナーを守り砂浜を使用することがいかに大切であるかを痛感させられました。

活動終了後に、当社で記念撮影をして、公園内にシートを広げて参加者全員でお弁当をいただきました。ざっくばらんに会話も盛り上がり、皆でひとつの目標を成し遂げた後であることもあり、よりいっそう美味しくお弁当をいただきました。ふと、その時感じたのが、きれいな海岸と公園の整備を維持されている方々がいらっしゃるからこそ、このような美しい自然と触れ合えるのだと感じることができました。活動前には一見きれいに見えた砂浜も、実は相当量のごみがあったことを考えると、日々私たちが心がけていかなければ、きれいな景観は維持できないのだと実感しました。

来年以降も会社としては勿論のこと、私自身も清掃活動に継続して参加し、砂浜の景観維持に貢献していきたいと思っています。

## ようこそ旧三井家下鴨別邸へ

山藤 忠

(三井不動産レジデンシャルサービス関西西 OB)

京都の下鴨神社南側参道の鳥居西側に位置する旧三井家下鴨別邸が、今年10月1日から通年公開になりました。小生もそれに伴い、当別邸でボランティアとして活動を行っています。

三井家の祖霊社である顕名霊社(あきなれいしゃ)が遷座され、その参拝の際の休憩所とするため、大正



14年(1925)に三井家11家の共有の別邸として、三井北家(総領家)第10代の三井八郎右衛門高棟(たかみね)によって建築されました。建築に際しては、京都木屋町三条にあった三井家木屋町別邸が主屋として移築されました。

戦後は京都家庭裁判所の所長宿舎として、平成19



池より主屋を望む

年まで使用されました。平成23年に重要文化財に指定された後、調査、設計、修復工事を行い、通年公開に至りました。公開と同時に関西のみならず、全国各地から多い時で一日800人余りの入館者を数えるまでとなり、邸内および庭園が溢れる

ばかり、予想以上とっていいかもしれません。

邸内で提供している和菓子付き抹茶（500円）で庭園を眺めながら楽しむ方も多く、我々ボランティアもその対応に忙しくしています。茶室や主屋の2階部分をリーズナブルな価格で借りられることから、来館中に検討される方も沢山いました。

入館者の中には、三井グループOBの方もおられ、三井家の歴史などを綿々とお話をしてくれる方も少なくありません。これもこのボランティア活動しているからこそ、新たな勉強になります。また、京都には三井家に関する邸跡、店舗などの跡が数多くあり、認識を新たにすると同時に、当別邸も新たな京都の名所として、沢山の訪問者が増えることは、間違いなさそうです。

先日、元家庭裁判所長の奥様が来館され、重要文化財に指定される前は雑草も生えていたが、今回の訪問



主屋より庭を望む

でかくも綺麗に、庭も邸も修復されたのを見て大変感慨深く、驚かされていました。

京都へ来られる際には、是非、下鴨神社と共に、旧三井家下鴨別邸を訪問していただき、明治、大正時代の邸宅を体験し、昨年の朝ドラで放送された『あさが来た』の「広岡あさ」の手紙（複製）も鑑賞して下さい。

## 2016年 大阪マラソンボランティアに参加して

宮脇 妙子（登録会員）

10月30日 第6回大阪マラソンでのボランティアに参加させていただきました。

今年も約32,000人のランナーが大阪の町を駆け抜け



右端が筆者

ました。天気は快晴、気温も朝は冷え込みましたがスタートの9時頃には徐々に上がり、絶好のマラソン日和となりました。

今回は20Km 地点、給水 No.1、No.2 という重要なポイントでの給水活動です。

9時半頃、車椅子マラソンの先頭が風のように目の前を走り抜けました。車椅子ランナーの美しい姿を間近で見た感動と、マラソンが始まった!! という思いで思わず涙ぐみそうに…

初めは余裕を持って作業出来たのですが、どんどんランナーの数が増えると 頑張っでドリンクの補充をしても間に合わずてんでこ舞でしたが、ボランティア29名全員で協力しながら切り抜けました。

途中あまりの忙しさに手が滑り、ドリンクをこぼしてしまう失敗もありましたが、まわりの皆さんが「大丈夫! 大丈夫!」と励まして下さり、気持ち良く活動出来ました。

マラソンボランティアは初めてで、上手くできるか不安で緊張していましたが、リーダーの方々が丁寧に指示して下さい、他のボランティアメンバーも良い方ばかりで無事に終わることが出来ました。

ランナーの方々からは「ありがとう!」の言葉とたくさん元気もらい、本当に楽しい1日を過ごさせていただきました。



## 中国支部（広島）

### 8月6日広島平和記念式典 車いす介助ボランティア活動に参加して

徳永 久（東芝OB）

平成28年8月6日（土）広島に原爆が投下され71年が経過しました。

会社勤めをしていた時にも式典ボランティアの参加募集もありましたが、今一步踏み出せない自分でした。現在、縁あってデイサービスの送迎運転の仕事に従事しており、足腰等の不自由な方を車いす等で介助するに当り、介助知識を習得する必要があると感じ、「准サービス介助士」の資格を取得。社会福祉活動に積極的に参加しようと思い、この度のボランティア活動に参加致しました。

7月に、「車いす介助ボランティア講座」＝被爆体験者、介助ボランティア経験者のお話と、オリエンテーション。平和公園内での「実地体験」を受け、当日を迎えました。

ボランティア参加者数は152名（高校生・女子大生・社会人・高齢者 他）、車いす70台で公園内4ヵ所（資料館本館下、本川橋東詰、元安橋西詰、原爆ドーム前）に「車いす等介助受付」を設け、2人1組または、3人1組で車いす1台を担当。幸いにも天候に恵まれ早朝（6時30分）から10時までの活動を致しました。

活動内容は、式典会場から約500m周辺まで足を運び、声かけ（笑顔で挨拶し、手助けがいるかどうかを尋ねる）をして、手助け希望者を快適に目的地（式典会場：車いす席か一般席）にご案内。式典終了後の慰霊碑参拝、公園周辺の公共交通機関の乗場までの送迎を行う事です。

私は記念資料館下（正面）本部受付での対応で、2名の方を式典会場までお連れさせて頂きました。

いずれも式典会場から400m離れた場所で「声かけ」をし、利用させて頂きました。

7月の実地体験を生かし、石畳の個所、歩道の凹凸をゆっくりと利用者様が不安にならないよう動作の度に具体的に「声かけ」をしながらの誘導を心掛けました。

対応した2名の内、1名の方は式典終了後、慰霊碑参拝～百米道路西側に200m先までお送りし、タクシー



写真中一番右側が筆者

乗車までご案内させて頂きました。

お別れの時「本当に有難う」の感謝の気持ちを頂いたのがとても心地よく、気持ちの疲れを癒してくれました。

参加した印象としては、私たち「車いす介助」だけでなく、市職員他、各種（おしほり/冷水のサービス・警備・誘導員・救護所担当他）ボランティアの多くの皆様で運営が支えられていることに驚きを隠せなかったことです。

来年も、この度の経験を生かした、よりスムーズなエスコートが提供出来るように心掛けたいと思います。

### 「第23回もみじ作業所まつり」に参加して

中土居 千恵子（三井生命 現役）

平成28年8月27日に開催された社会福祉法人もみじ福祉会主催の「もみじ作業所まつり」のボランティアに初めて参加しました。当日は汗ばむほどの晴天となり多くの方の来場があり、祭りは大いに盛り上がりました。

もみじ作業所は、障害のある方がパンやケーキを焼いたり、段ボール箱を組み立てたり、アルミ缶のリサイクル事業等を仕事にしたりして頑張っている自立支援の施設です。

ボランティア活動に参加するまで少し不安を感じていましたが、多くのサポートされる方がおられ安心し直ぐに他のボランティアの方とも仲良く交流出来ました。

私は出店の売り子の担当となり、手作りのカレー・唐揚げ・焼き鳥等を施設に入所している子供たちと一緒に「いらっしゃいませー」と大きな声をかけながら、販売活動のお手伝いをし、たくさん売ることができました。施設の子供たちとの共同作業によって日頃感じることもないような達成感があり、参加した13時から17時までの4時間があっという間に過ぎました。来年も都合がつけば参加したいと思っています。



写真の右側が筆者



## 中国支部は10周年を迎えました。

中国支部 事務局 佐々木邦晴

中国支部は平成28年10月で10周年を迎えることができました。設立時事務局を務められた皆様のご尽力により環境保全、社会福祉、国際交流とさまざまな分野において道筋ができました。設立当初から始めた広島平和公園の清掃活動は113回を数え、これには会員の皆様に初め東芝エレベータ（株）中国支社の企業ぐるみでの参加、広島経済大学他、大学生の継続的な参加があったればこそと感謝しています。お陰さまで延べ2,900名の活動となりました。パソコン教室も並行して活動を開始し、会員の方に講師としてご支援いただき168回となりました。また福祉活動においては、特に「ひろしまフラワーフェスティバル」でのイベント支援、8月6日の広島平和記念式典、マーガレットコンサート（身体障害者と広島交響楽団とのコラボ演奏）での車

いす介助、広島市郷土資料館のイベント（駄菓子作り広場）は毎年恒例となりました。またNPO法人「ひろしま人と樹の会」の森林保全活動をベースとした伐採作業、植樹祭、そば栽培教室、クマとの共生・柿もぎ体験（クマ出没防止のための柿もぎ体験）、炭焼き等に積極的に参加を募っています。活動の継続により平成25年には5年以上の清掃活動に対して「広島市長表彰」を、平成26年には社会福祉に貢献したとして「広島市社会福祉協議会会長賞」を平成27年には「広島市長表彰」を受賞しました。また、平成29年1月19日には平成28年度広島市環境美化功労者表彰に選ばれ、「環境美化永年活動10年表彰」の受賞のため表彰式に出席します。これもひとえに会員皆様の支えによるものと感謝しております。これからも引き続き三井 V-Net 中国支部の活動にご支援ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

## 物品ご提供による支援のお願い

三井V-Netでは下記の物品を随時収集しております。

集まった品々は年末に一年分を取りまとめ協力団体を経由して換金のうえ、東南アジア僻地の子供たちの中学就学やインドでの女性の生活向上と農業プロジェクトおよびインドネシアにおける給水・農業の技術指導など各事業の支援に役立てています。

支援金のもととなる物品につきましては、ボランティア会員に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく、お知り合いにもお声をかけていただければたいへん幸甚でございます。ご協力を心よりお待ちしております。

### ご提供いただきたい物品

- 未使用はがき・書き損じはがき
- 切手（国内外、使用・未使用問わず）
- プリペイドカード（未使用のみ）
- 使用済み（純正）インクカートリッジ



### ご提供品送付先

三井ボランティアネットワーク事業団の本部  
もしくは各支部あて

#### ■本部（東京）

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F  
TEL: 03-5570-2181 FAX: 03-5570-8035

#### ■関西支部（大阪）

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7F  
TEL: 06-4396-8680 FAX: 06-4396-8681

#### ■中国支部（広島）

〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5F  
TEL/FAX: 082-222-5101

